

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
家政学原論I	家政学部 共通科目	1	2	あなたにとって「家庭」「家族」とはいかなる存在であろうか。そもそも家政学という学問名称に付された「家政」とは何を意味しているのだろうか。また、人として「生活」ということには、他の生物にはないどのような独自の世界があるのだろうか。本科目では、まず家政学を支えるこれらの用語の根源的な意味について考えを深める。そして、その上で、家庭を中心とした生活世界の構造を考え、そこに貫かれている精神と文化について考察する。さらに、これらを家政学研究の今と重ね、その可能性について考える。家政学文献の精査と討論を重ねるなかで、家政学的世界の独自性とその限界、さらには可能性について考えることになろう。	1.家政学の存在意義について、理解できるようになる。(知識・理解) 2.家政学を学ぶ学生にとり、自己の学問へ向かう姿勢とまなざしを得ることができるようになる。(関心・意欲・態度) 3.家政学の歴史と現況を知ることによって、家政学が抱えている諸問題を認識しながら、一方でその可能性を自らの中に確認し、家政学が果たすべき世界を実現することができるようになる。(思考・判断・表現)	1.家政学の存在意義について、基礎的な事柄を理解できるようになる。(知識・理解) 2.家政学を学ぶ学生として、自己の学問へ向かう基礎的なまなざしを得ることができるようになる。(関心・意欲・態度) 3.家政学の歴史と現況を知ることによって、家政学が抱えている諸問題を認識しながら、一方でその可能性を自らの中に確認し、家政学が果たすべき世界を実現することができるようになる。(思考・判断・表現)
家政学原論II	家政学部 共通科目	1	2	あなたにとって「家庭」「家族」とはいかなる存在であろうか。そもそも家政学という学問名称に付された「家政」とは何を意味しているのだろうか。また、人として「生活」ということには、他の生物にはないどのような独自の世界があるのだろうか。本科目では、まず家政学を支えるこれらの用語の根源的な意味について知る。そして、その上で、家庭を中心とした生活世界の構造を考え、そこに貫かれている精神と文化について考える。さらに、これらを家政学研究の今と重ね、その可能性について考えてゆく。家政学文献の精査と討論を重ねるなかで、家政学的世界の独自性とその限界、さらには可能性について考えることになろう。	1.家政学が目指す世界を概観し、探求することができるようになる。(関心・意欲・態度) 2.家政学は学問として家族・家庭・生活・人間についてどのように見つめているのかというような家政学が学問として成立するためのまなざしの独自性を理解することができるようになる。(知識・理解) 3.家政学が対象とする普遍的課題において、自己とのかかわりを不可分にしながら、なお自らの精神と文化の礎になっている家庭生活の意義や構造に言及し、自らが置かれている時空を創造する力を身につけることができるようになる。(思考・判断・表現) 4.上記の事柄について、自らの思考に基づいて論を展開し、適切に発言、意見交換、表現する能力を身につけることができるようになる。(思考・判断・表現)	1.家政学が目指す基本的な世界を概観し、探求することができるようになる。(関心・意欲・態度) 2.家政学は学問として家族・家庭・生活・人間についてどのように見つめているのかというような家政学が学問として成立するための基本的なまなざしの独自性を理解することができるようになる。(知識・理解) 3.家政学が対象とする普遍的課題において、自己とのかかわりを不可分にしながら、なお自らの精神と文化の礎になっている家庭生活の意義や構造に言及し、自らが置かれている時空を創造する力を身につけることができるようになる。(思考・判断・表現) 4.上記の事柄について、自らの思考に基づいて論を展開し、適切に発言、意見交換、表現する能力を身につけることができるようになる。(思考・判断・表現)
家庭経営学I	家政学部 共通科目	1	2	現代の家庭は、情報化、国際化、少子高齢化、男女共同参画社会へといった社会の変化の中で、IT化、文化間交流、世代間交流、ワーク・ライフ・バランスといった具体的な変化を求められている。このような現代社会の変化が家庭に及ぼす影響や問題点を整理し、よりよく家庭経営をしていくために利用しうる人的・物的社会資源、法律や行政の施策についての知識を習得し、今後の家庭経営や社会政策についての課題を見出す。また、現代は個人の多様な生き方が尊重されてきているが、社会や地域で孤立せずに自己実現をはかり、自分らしく生きるためには、自助・共助・公助についての生活環境を主体的にととのえることが大切である。家庭経営上の課題について具体的にとりあげ、問題解決に向けての方策を考えながら、家庭経営に必要な態度や技能を習得する。	・家族の変遷について社会学と法学から説明できる。(知識・理解) ・家庭経営をするうえで必要な最新の情報を調査し、現代社会の変化に応じて課題を見出し、家族や地域社会で課題解決に向けた提案ができる。(技能) ・家庭・地域社会・社会で、自己実現をはかりながら自分らしく生きるために、自助・共助・公助の生活環境を主体的に整えることができる。(思考・判断・表現)	・家族の変遷を社会学と法学から理解できる。(知識・理解) ・家庭経営に関する具体的事例について、社会の変化に応じた課題を見出し、情報を収集して、家族や地域社会へ解決に向けた提案ができる。(技能) ・自助・共助・公助の生活環境を主体的に整え、生活を設計できる。(思考・判断・表現)
家庭経営学II	家政学部 共通科目	1	2	多様化するライフスタイルのなかで、家族のライフステージごとの諸問題を把握し、家庭、地域、社会において人的・物的資源を有効に生かした家庭経営の在りかたを、自分の生活価値観を省みながら、具体的に考える。今後よりよく生きる行動力を養い、社会的課題を見出す。 前半は、自分の生活を客観的に分析し把握するため、これまでの生活の調査、異世代へのインタビューを行い、家庭経営に必要な知識を得る。後半は、生活課題についてテーマを設定し、具体的な情報収集を行い、生活向上のための新たな視点を見出すことで、家庭を経営する態度と技能を具体的に養う。	・自分自身の生活の調査、異世代へのインタビューから、家庭経営に必要な生活環境とライフステージごとの生活課題を理解する。(知識・理解) ・グループで共通の関心事である生活課題に関する情報を収集し、課題解決に向けた方策を具体的に提案することができる。(技能) ・個人と家族の生活設計をライフステージごとの課題や目標に従って計画できる。(思考・判断・表現)	・個人と家族の生活調査により、自己実現を図るためのライフステージごとの生活課題を理解できる。(知識・理解) ・グループで共通の関心事である生活課題に関する情報を収集し、課題解決に向けた具体的な提案ができる。(技能) ・個人と家族の生活設計を目標に従って計画できる。(思考・判断・表現)
消費者経済学	家政学部 共通科目	1	2	国民経済の循環において、労働者かつ消費者としての国民の経済活動は重要な役割を担っている。現代の少子高齢化、情報サービス化、国際化の中での経済環境を理解し、それぞれの消費者が自分のライフスタイルに基づいて合理的な経済活動を行うための知識を得る。1か月間、自分の家計簿を記載し、具体的に経済活動の自己分析を行い、生活上の問題解決方法を見出し、よりよい経済活動のための技能を身につける。労働者であり消費者である生活者として、消費者の権利ばかりでなく、環境への配慮や社会的な責任も自覚しながら、経済活動を行う態度を養う。	・国民経済の循環と家庭経済の関係を理解し説明できる。(知識・理解) ・家庭経済の収入と支出について説明できる(知識・理解) ・家計簿の記録と消費活動の改善ができる。(技能) ・消費者の権利と持続可能な社会に向けた消費について理解し、生活行動を振り返り、改善方法を提案できる。(思考・判断・表現)	・国民経済の循環と家庭経済の関係を理解し説明できる。(知識・理解) ・家庭経済の収入と支出について説明できる(知識・理解)・家計簿の記録と消費活動の改善ができる。(技能) ・消費者の権利と持続可能な社会に向けた消費について理解し、生活行動を振り返り、改善方法を提案できる。(思考・判断・表現)

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
生活関連法規	家政学部 共通科目	3	2	インターネットやクレジットの普及にともない、商品やサービスを提供する事業者とそれらを購入し利用する消費者との間で様々なトラブルが生じている。 本講義においては、消費者トラブルの未然防止及び被害救済のために、民法による救済法理とその限界を理解するとともに、消費者保護のための特別法の必要性を確認し、特別法の概要及びその効力と限界について事例を通して理解する。また、法が定められていない問題に対し、消費者としてどのように対応していくべきかについて、企業、行政、学校、家庭の役割を含めて考える。	1 民法による消費者被害の救済法理を理解し、その限界を説明できる。（知識・理解） 2 消費者契約法のうち被害救済に関わる制度を理解し、その効力と限界を説明できる。（知識・理解） 3 特定商取引法のうち被害救済に関わる制度を理解し、その効力と限界を説明できる。（知識・理解） 4 割賦販売法のうち被害救済に関わる制度を理解し、その効力と限界を説明できる。（知識・理解） 5 製造物責任法のうち被害救済に関わる制度を理解し、その効力と限界を説明できる。（知識・理解）	1 民法のうち消費者被害の救済に関わる制度の基本的事項を理解している。（知識・理解） 2 消費者契約法のうち被害救済に関わる制度の基本的事項を理解している。（知識・理解） 3 特定商取引法のうち被害救済に関わる制度の基本的事項を理解している。（知識・理解） 4 割賦販売法のうち被害救済に関わる制度の基本的事項を理解している。（知識・理解） 5 製造物責任法のうち被害救済に関わる制度の基本的事項を理解している。（知識・理解）
家族関係学	家政学部 共通科目	1	2	家族関係は多くの人にとって、最も身近で、重要な関心事であるが、この家族関係への認識は、個人的経験や一方的に報道されるマスコミの情報によって、偏って形成されがちである。本講座では、家族の歴史、各種の統計や制度面、国際比較などから家族関係を客観的に把握し、家族関係に関する知識を新たに作る。また、産業の変化による労働形態の変化、少子高齢化、単独世帯の増加などの現代社会の変化に伴う家族問題を見だし、現代の家族のサポートシステムについて行政、民間団体など各方面から紹介をする。家族の諸問題の具体的事例について、よりよい家族関係をつくっていくための考察を行う。また、家族をサポートする社会福祉援助の態度や技能について理解する。	・現代の家族関係の変化を各種統計や社会制度面から客観的に理解できる。（知識・理解） ・具体的な現代の家族問題について、主体的対話による紛争解決や家族を支える諸外国のサポートシステムから考察を深め、よりよい家族関係への提案ができる。（技能） ・家族、地域社会の一員として社会福祉援助について理解を深め、多様な人々との共生について主体的に提案できる。（思考・判断・表現）	・現代の家族関係の変化を各種統計や社会制度面から理解できる。（知識・理解） ・具体的な現代の家族問題の解決に向けて、主体的対話による紛争解決や家族を支えるサポートシステムから解決法を提案できる。（技能） ・社会福祉援助を理解し、多様な人々との共生について提案できる。（思考・判断・表現）
人間形成の心理学	家政学部 共通科目	3	2	この科目では、人間形成に関連する心理学的知識を身につけ、自己理解を深めるための学びを行う。まず、心身の発達過程、解離と心的外傷のメカニズムについて理解する。次に、虐待の定義やメカニズムを知り、虐待を防止する方法について考える。さらに、子どもの絵の表現や絵画療法に関する体験的学習や、おとぎ話の意味に関する理論的学習を行う。自己理解を深めるために、心理検査や心理劇(ロール・プレイング)も活用する。	1.人間形成に関連する心理学的知識に積極的な関心を向け、意欲的かつ計画的に学ぶことができる。（関心・意欲・態度） 2.人間の心身の発達過程について体系的に理解することができる。（知識・理解） 3.解離と心的外傷の定義やメカニズムについて包括的に理解することができる。（知識・理解） 4.親になることの意味、および虐待の定義やメカニズムについて総合的に理解することができる。（知識・理解） 5.虐待の防止方法について具体的かつ適切に提案することができる。（思考・判断・表現） 6.遊びの象徴的意味について詳細に把握することができる。 7.絵画表現や絵画療法の幅広い世界について、知識と実践の両面から理解することができる。（思考・判断・表現） 8.おとぎ話の深層にある意味について総合的に理解することができる。（知識・理解）	1.人間形成に関連する基本的な心理学的知識に関心を向け、計画的に学ぶことができる。（関心・意欲・態度） 2.人間の心身の発達過程に関する基本的知識を理解することができる。（知識・理解） 3.解離と心的外傷の定義やメカニズムの基本を理解することができる。（知識・理解） 4.親になることの意味、および虐待の定義やメカニズムに関する基本的知識を理解することができる。（知識・理解） 5.虐待の防止方法に関する自分なりの考えを提案することができる。（思考・判断・表現） 6.遊びの象徴的意味に関する基本的知識を把握することができる。（知識・理解） 7.絵画表現や絵画療法の世界について、体験的に理解することができる。（思考・判断・表現） 8.おとぎ話の深層にある意味に関する基本的知識を理解することができる。（知識・理解）
児童文化論	家政学部 共通科目	3	2	児童文化とは、子どもをめぐる様々な文化や児童文化財について学ぶ科目である。児童文化の定義及び特色を理解し、意義について検討する。また、児童文学、絵本、紙芝居、人形劇、ペープサート、パネルシアターなどの児童文化財に実際に触れながら、それぞれの特色を理解し、子どもの育ちを支えるための活用方法について学ぶ。また子どもの遊びについて現状を理解し、考察する。さらに、子どもをめぐる伝承文化について理解し、子どもの育ちにとって文化的環境がいかに関わり、どのような意味を持つのかについて考察する。	1.児童文化の定義、特色、意義について理解し、説明できるようになる（知識・理解）。 2.さまざまな児童文化財に触れ、自ら作品を制作し発表までできるようになる（技能）。 3.またその際、子どもの育ちを支える児童文化財の活用の方法や文化的環境のあり方についての視点をもって、制作・発表できるようになる（思考・判断・表現） 4.子どもをめぐる伝承文化について成り立ち等も含めて広く理解し、説明できるようになる（知識・理解）	1.児童文化の定義、特色、意義について理解できる（知識・理解）。 2.さまざまな児童文化財に触れ、選択して発表できるようになる（技能）。 3.またその際、子どもの育ちを支える児童文化財の活用の方法や文化的環境のあり方について意識できるようになる（思考・判断・表現）。 4.子どもをめぐる伝承文化について理解できる（知識・理解）。
保育学	家政学部 共通科目	3	2	家庭における保育、保育所・幼稚園・認定こども園における集団保育の方法、内容について考える。具体的には、子どもの発達、子育て支援、保育制度、子どもと保健、保育史の理解など、幅広い領域を取り上げ、子どもの発達にふさわしい環境づくりやわかりやすい方を考えていく。そして、家庭や集団において「共に育ち合う」保育ができる力を伸ばしていきたい。	1.子どもの誕生と保健について総合的に説明できる。（知識・理解） 2.子どもの成長・発達と生活について総合的に説明できる。（知識・理解） 3.親の役割、子育て支援について総合的に説明できる。（知識・理解） 4.集団保育の制度、内容等について総合的に説明できる。（知識・理解） 5.子どもの人権と福祉について総合的に説明できる。（知識・理解）	1.子どもの誕生と保健について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 2.子どもの成長・発達と生活について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 3.親の役割、子育て支援について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 4.集団保育の制度、内容等について基本的な事項を説明できる。（知識・理解） 5.子どもの人権と福祉について基本的な事項を説明できる。（知識・理解）
社会福祉論	家政学部 共通科目	1	2	この授業では、社会福祉の基礎概念について概観し、社会保障制度、障害者福祉、児童福祉、高齢者福祉、地域福祉、ひとり親家庭の福祉、女性福祉の各領域について、法制度などの仕組み、課題、問題について理解を深め、その対応策、解決策について学ぶ。また、これらの問題について受講者自身が知識を深め実態を知り、ソーシャルワークの展開過程を基に、適切な支援とは何かを考えることができるようになることを目標とする。	1.社会福祉の価値、実践について学び、理解できるようになる。（知識・理解） 2.社会福祉における重要な概念について理解を深め、現状の課題・問題点を説明し、自身の言葉で対応策、解決策を説明することができる。（理解・関心・態度） 3.様々な困難を抱える人に対して、支援方法としての法制度、支援技法について理解し、実践することができる。（知識・理解・態度）	1.社会福祉の価値について学び、理解できるようになる。（知識・理解） 2.社会福祉における重要な概念について理解を深め、現状の課題・問題点を説明することができる。（理解・関心・態度） 3.様々な困難を抱える人に対して、支援方法としての法制度、支援技法について理解することができる。（知識・理解・態度）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
人間学	家政学部 共通科目	1	2	この授業では、乳児期、幼児期、児童期、青年期前期、青年期後期、成人期、老年期のそれぞれの発達段階ごとの発達の特徴と心理的危機について扱う。そして、人間のライフスパンを通した人生経験について心理学の視点から概観していく。受講者は自身の発達段階である青年期後期の発達の特徴と心理的危機について、自分自身の経験と関連付けながら学び、現在までの育ちと将来の人生を考えることを通して「人間学」を考える。	1.生涯発達の視点から発達段階を中心に心理学的理論を学び、理解できるようになる。（知識・理解） 2.自分の過去、現在、将来を発達段階や発達課題の視点で捉えなおし、自分の人生の見方を広げることができる。（関心・意欲・態度） 3.自分を取り巻く他者の人生と自分の人生を重ね合わせ、自分の人間関係について捉えなおすことができる。（関心・意欲・態度）	1.生涯発達の視点から発達段階を中心に心理学的理論を学び、理解できるようになる。（知識・理解） 2.自分の過去、現在、将来を発達段階や発達課題の視点からふりかえることができる（関心・意欲・態度） 3.自分の人間関係についてふりかえることができる。（関心・意欲・態度）
高齢者論	家政学部 共通科目	1	2	本科目は今後一層解決しなければならない課題の多い超高齢社会において、高齢者及び高齢者をめぐる家族、家庭、社会の諸問題への理解と関心を深め、これらの課題に主体的に取り組むことのできる能力を身につける。授業は大きく以下の3部から構成される。第1部では、高齢者自身への理解を深め、心身の全体像を考察する。第2部では、高齢者の生活行動に視座をおき、高齢者の生きる環境を食衣住などの生活諸相から概観する。第3部では、自らのライフコースを想起しながら、高齢者をめぐる社会問題について理解を深める。これらを通して、自らの高齢者観を整理、構築する。	1.解決しなければならない課題の多い超高齢社会において、高齢者及び高齢者をめぐる家族、家庭、社会の諸問題への理解を深めることができるようになる。（知識・理解） 2.高齢者及び高齢者をめぐる諸課題について、自らのこれからのライフコースに重ねて理解し考え、諸課題解決のために主体的に実践・行動に移すことができる能力を身につけることができるようになる。（関心・意欲・態度）	1.解決しなければならない課題の多い超高齢社会において、高齢者及び高齢者をめぐる家族、家庭、社会の諸問題への基礎的な理解を深めることができるようになる。（知識・理解） 2.高齢者及び高齢者をめぐる諸課題について、自らのこれからのライフコースに重ねて理解し考え、諸課題解決のために主体的に実践・行動に移すことができる基本的な能力を身につけることができるようになる。（関心・意欲・態度）
被服学概論	家政学部 共通科目	1	2	被服学は材料学、管理学、染色学、衛生学、流通・消費科学、染織文化史、服装史、造形学、デザインなどの諸領域からなる学問であり、被服学を概観するにはこれらすべての概略を知る必要がある。例えば材料学は、品質表示、繊維の分類、主要な繊維の生産・構造・性質、糸の性質、織物・編み物の性質などを含む。管理学では、これらの材料を仕上げ加工・染色し、どのように取り扱うのかを理解する。そのほかの分野も社会における繊維・アパレル製品の製造、流通・販売、消費など諸分野に対応している。本科目では、被服学全般に関する概要を理解できるようになる。	1. 家政学の概略を理解したうえで、広い視野での考察ができるようになる。（知識・理解）	1. 家政学の分野において、自らの専門領域と被服学の違いを理解する。（知識・理解）
食物学概論	家政学部 共通科目	1	2	日本是世界一の長寿国だと言われており、平均寿命も健康寿命も世界ナンバーワンだとされてきた。しかし、近年、その健康を支える「食」のあり方が、若い世代を中心に崩れてきていることが指摘されている。このことは、がんや糖尿病を含む生活習慣病の増加として、社会的な問題となってきた。 食事は、生活習慣病を引き起こす最も大きな要因のひとつであると報告されている。現在わが国では、3人に2人が生活習慣病で亡くなっている。生活習慣病は、正しい「食と栄養」の知識を得ることによって、防げることが知られている。 本授業では、私たちの身体は自然科学の一部であり、私たち一人一人が、自分自身の体の仕組みや「食と栄養」について知ることで、自らの寿命を延ばすことができるという事実を理解し、自らの健康を守るために知っておくべき「食と栄養」の基礎について楽しく習得する。	1. 「食と栄養」と健康の関係について、基礎的な知識を身につけ、興味を持ち、家族や他者にも説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度） 2. 食に関わる自らの身体の仕組みについて、深く理解し、興味を持ち、説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度） 3. 自らの体質と環境因子（食と栄養）との関係について深く理解し、興味を持ち、説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）（関心・意欲・態度）	1. 「食と栄養」と健康の関係について、基礎的な知識を身につけることができる。（知識・理解） 2. 食に関わる自らの身体の仕組みについて、深く理解することができる。（知識・理解） 3. 自らの体質と環境因子（食と栄養）との関係について深く理解し、説明することができる。（知識・理解）（思考・判断・表現）
住居学概論	家政学部 共通科目	1	2	1. 住生活の諸問題 2. 住まいの変遷 3. 家族と住要求 4. 日本の住宅事情 5. 住まいの設計 講義を中心に映像等も交えながら、上記5項目の理解を目的とする。また、併行して講義内容を応用した簡単な製図課題を課し、空間を創造する。	・個人・家族の生活の拠点である住居について、住生活の基本的条件をふまえ、様々な角度から知識を関係づけることができるようになる。（知識・理解） ・製図課題を通して、問題を類別し、解決のために知識の応用ができるようになる。（知識・理解）	・個人・家族の生活の拠点である住居について、様々な角度から知識を関係づけることができるようになる。（知識・理解）

科目名称	科目区分	学年	単位	科目概要	到達目標（成績評価A）	単位修得目標（成績評価C）
考古学	家政学部 共通科目	3	2	<p>考古学という学問は、人間がこの地球上に残した「モノ」、あるいは痕跡から過去の人間の行動を復元し、人がどのように生きてきたのか、何を考えて生活してきたのかを学ぶ学問である。そして重要なことは、単に過去にあった事象を学ぶだけではなく、その結果を踏まえて、自ら今後の生き方について指針を見つけることが必要である。考古学という学問が、世間でよく誤解されるように宝探しても、探検でもなく、人文科学の一分野であることの理解が大切である。さらには、単に珍しいモノ、あるいは金銭的な価値があるモノを探し出すことが、「考古学」という学問ではないということをしっかりと学ぶことが必要である。特にこの授業では、単に座学として教室で教員の話聞くだけでなく、自らの足、目、手などの五感をフル活用する授業としていきたい。授業の内容は、日本の考古学を中心として講義をしていく。その中で、家政学に関する事柄を取り上げて、共通科目として「考古学」という授業が開講されている意義が理解できるように講義していく。そのためにも受講を希望するみなさんが、事前学習をきちんとおこない、積極的に授業に臨むことを希望する。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 「考古学」という学問が、どのようなことを学ぶ学問であるか、さらには「考古学」という学問を学ぶ意義を自らの言葉で説明できること。 この授業で「何を学んだか」ということを、具体的に例を挙げて説明できること。 この授業でおこなった「五感」を活かして考古学を学習するという内容が理解できていること。 「考古学」で学んだ知識を、自らが専門で学ぶ「家政学」に応用して活用できること。 「考古学」が人文科学の一分野であることを、具体的な事例を挙げて説明できること。 日本の時代区分のうち「古墳時代」がどのような時代であるかを、自らの言葉によって説明できること。 世界文化遺産について、その意味を正確に説明できること。 	<ol style="list-style-type: none"> 「考古学」という学問が、どのようなことを学ぶ学問であるかを説明できること。 「考古学」という授業が、なぜ家政学部で開講されているのかという質問に、自らの考えによって説明できること。 「五感」を活かして授業内容について、具体的な授業内容を説明できること。 「考古学」で学んだ知識を、「家政学」で学んだことに応用できること。 「考古学」が人文科学の一分野であることを、具体的な事例を挙げて説明できること。 日本の時代区分のうち「古墳時代」について説明できること。 世界文化遺産について、なぜこのような条約があるのか説明できること。
統計学	家政学部 共通科目	1	2	<p>統計学とは自然科学、社会科学、人文科学等で用いられる科学的な分析方法の一つであり、大量のデータの中に存在する法則性を扱う方法です。単に学問的な研究だけでなく、身近な家計管理、企業経営、政府の行政等の実務など幅広く使われます。</p> <p>本授業では、統計学を大学で初めて学ぶこと（配当学年が1年に設定されていること）を考慮し、入門書の順序や方法にならって実施します。まずはデータの基本構造を明らかにする記述統計学を理解します。さらに、限られたデータから全体を推測する推測統計学を理解します。</p> <p>統計学を学ぶための姿勢として、まず、入門書を熟読して、現実現象をモデル化するための確率と確率分布の意味と、母集団と標本の2つの概念を十分理解しながら、数値計算の演習を繰り返し練習することで、「高度な知識」と「考える力」を身につけます。本授業の最終到達点は、各分野での問題発見と問題解決のための応用力を養う「入門」と位置づけます。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 現実現象データをグラフや度数分布表で表し、確率分布する意味を総合的に説明・実施できる。（知識・理解、技能） 母集団と標本に関する、標本の意味や抽出・記録する方法を総合的に説明・実施できる。（知識・理解、技能） 標本分布に関する中心的傾向と変動の特性を得る方法を総合的に説明・計算できる。（知識・理解、技能） さまざまな形の確率分布に関して理解し、特に正規分布の性質と正規分布表の読み方を総合的に説明・実施できる。（知識・理解、技能） 各種確率分布と信頼係数を用いた母平均と母分散の推定の方法を総合的に説明・計算できる。（知識・理解、技能） 仮説検定の考え方に沿った統計量と有意水準を用いた母平均と母分散の検定法を総合的に説明・計算できる。（知識・理解、技能） 2つの現象がベアになって変化する関係における、相関関係と回帰式による分析方法を総合的に説明・計算できる。（知識・理解、技能） 	<ol style="list-style-type: none"> 現実現象データをグラフや度数分布表で表し、確率分布する意味を基本的な事項について説明・実施できる。（知識・理解、技能） 母集団と標本に関する、標本の意味や抽出・記録する方法を基本的な事項について説明・実施できる。（知識・理解、技能） 標本分布に関する中心的傾向と変動の特性を得る方法を基本的な事項について説明・計算できる。（知識・理解、技能） さまざまな形の確率分布に関して理解し、特に正規分布の性質と正規分布表の読み方を基本的な事項について説明・実施できる。（知識・理解、技能） 各種確率分布と信頼係数を用いた母平均と母分散の推定の方法を基本的な事項について説明・計算できる。（知識・理解、技能） 仮説検定の考え方に沿った統計量と有意水準を用いた母平均と母分散の検定法を基本的な事項について説明・計算できる。（知識・理解、技能） 2つの現象がベアになって変化する関係における、相関関係と回帰式による分析方法を基本的な事項について説明・計算できる。（知識・理解、技能）
環境学概論	家政学部 共通科目	2	2	<p>今日、地球環境は、急激に変化しつつある。現代の人間活動は、大量生産、大量消費、大量廃棄に象徴され、地球温暖化や熱帯林減少、砂漠化など、様々な環境問題を引き起こした。環境問題が顕在化する現代において、人間社会とそれを取り巻く自然環境との関係について理解することは、市民が知っておくべき教養の1つとして重視されている。とりわけ、社会システムの側面から、環境問題の原因、実態や影響等について、科学的に理解することがもめられる。また、近年注目されている環境保全や循環型社会、持続可能なまちづくりの必要性が注目されている。</p> <p>そこで、この授業では、人間の生活の舞台である自然環境について科学的に理解する力を養うことをねらいとする。さらに、様々な環境問題に対する解決方法（対策）について、自ら考える力を習得することを目指す。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 地球温暖化や熱帯林の破壊など、地球規模の環境問題について、原因、実態、影響を理解するとともに、それらの対策や解決方法についても、主体的に考えることができる。 大気汚染や水質汚濁など、身近で起こっている環境問題について、原因、実態、影響を理解するとともに、それらの対策や解決方法についても、主体的に考えることができる。 種々の自然災害（地震や気象災害など）に関して、メカニズムや実態などを説明できる。 生態系や食物連鎖などについて、人間活動のかかわりを含め、その実態や影響について説明することができる。 環境的な観点から、持続可能な社会を構築するために、どう行動すべきかを自ら考えることができる。 国内外の自然、環境分野における世界と日本の関わりについて具体的に説明できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 地球温暖化や熱帯林の破壊など、地球規模の環境問題について、原因、実態、影響を理解できる。 大気汚染や水質汚濁など、身近で起こっている環境問題について、原因、実態、影響を理解できる。 種々の自然災害（地震や気象災害など）の実態について基礎的な知識を習得する。 基礎的な地球のなりたちや歴史について理解できる。 生態系のなりたちなど、環境と生物との関係について理解できる。 世界の環境と人間活動の関わりについて理解できる。
家庭電気・機械	家政学部 共通科目	3	2	<p>合理的で快適な家庭生活を営む上で必要とされる電気工学・機械工学に関連する基礎的事項および家庭用の各種機器を取り上げて、講義をする。現在、家庭生活においては多くの機器が使用され、また高度化も著しく、様々な知識が必要とされている。</p> <p>本講義では電気的基础、機械的基础を学び、生活の中で利用する家庭電化製品及び情報処理機器などの仕組みとその利用方法について理解する。また、保守点検の方法についても学ぶ。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 電気工学に関連する各種法則などについて説明できる。（知識・理解） 各種機構や各種機械要素などについて説明できる。（知識・理解） 家庭用各種機器の原理・構造について明確に説明できる。（知識・理解） 家庭用各種機器の正しい取り扱い方法について明確に説明できる。（知識・理解） 家庭用各種機器の保守・点検方法について明確に説明できる。（知識・理解） 	<ol style="list-style-type: none"> 電気工学に関連する基本的な法則などについて説明できる。（知識・理解） 各種機構や各種機械要素などの基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 家庭用各種機器の原理・構造の基本的な事項について説明できる。（知識・理解） 家庭用各種機器の正しい取り扱い方法について説明できる。（知識・理解） 家庭用各種機器の保守・点検方法について説明できる。（知識・理解）